

アンデスの花嫁 (1966)

メディア 映画

ジャンル ドラマ

製作国 日本

色彩 Color

初公開日 1966/09/23

公開情報 東宝

【解説】

「ブワナ・トシの歌」の羽仁進が脚本・監督を務めた、セミドキュメンタリータッチの劇映画。撮影は「手をつなぐ子ら」の長野重一、音楽は「悪党」の林光が担当した。アンデスでオールロケを敢行したという。

タミ子はアンデスの奥地にある集落に嫁いでくる。夫の上田太郎は日系人で、山奥に埋蔵されているはずのインカ帝国の財宝を、現地の人間と一緒に発掘しようとしていた。タミ子は夫が発掘した出土品を売りに町に出かけ逮捕される。財宝を求め家を出て半年、その間に子供を出産したタミ子のもとに太郎が帰ってきた。ついに財宝のありかを見つけたという。太郎は発掘隊とともに財宝を掘り当てるが、崩れた遺跡の下敷きとなり命を落としてしまう。

【クレジット】

監督 羽仁進 Susumu Hani

製作 馬場和夫

脚本 羽仁進 Susumu Hani

撮影 長野重一

音楽 林光

ドン・マテオ

出演 左幸子

アンセルモ福田 Anselmo Fukuda

高橋幸治

ドン・マテオ